



2021年6月

第312号

The Service Club of The YMCA

東京八王子 ワイズメンズクラブ

会長 花輪 宗命
副会長 山本 英次
書記 長谷川あや子
会計 小口 多津子
直前会長 並木 信一
担当主事 中里 敦
プリテン 山本 英次・茂木 稔
大久保 重子

国際会長 Jacob Kristensen(デンマーク) 主題 価値観、エクステンション、リーダーシップ スローガン「命の川を信じよう」
アジア太平洋地域会長 David Lua(シンガポール) 主題:「変化をもたらそう」
スローガン:「奮い立たせよう」
東日本区理事 板村 哲也(東京武蔵野多摩) 主題:「変化を楽しもう」
副題:「助け合い、分かち合い」
あずさ部部長 御園生 好子(東京サンライズ) 主題:「変わるに挑戦!」
クラブ会長 花輪 宗命 主題:「すべてに感謝」

6月例会プログラム

(Zoomの可能性あります)

日時:6月26日(土)18:00~20:00

(担当B班:花輪、並木真、久保田、望月、福田)

司会:久保田貞視

Zoom 操作:中里(会議室取れない場合)

開会点鐘 花輪会長

ワイズソング:zoomの場合(1番のみ)

ワイズの信条

ゲスト・ビジターの紹介 花輪会長

聖書朗読 並木 真

卓話;

「コロナ禍におけるフードバンクにみる日本社会の貧困」

NPO 法人フードバンク八王子 えがお理事長

佐野英司氏

東京YMCA報告 担当主事:中里 敦

Happy バースデー 花輪会長

連絡事項 会長・各担当

スマイル 福田勝江

閉会点鐘 花輪会長



巻頭言

ともに手を携えて歩み続けよう!

今期会長 花輪宗命

八王子ワイズメンズクラブの2020年度も、今月で波乱万丈とも言うべき1年の幕を閉じることになりました。

思い起こせば、昨年6月、並木前会長からタスキ(実際は会長バッジ)を引き継ぎ、八王子クラブの輝かしい伝統に恥じないクラブ運営を目指して、7月に意気揚々とキックオフしました。しかし、皆さま十分ご承知のように、コロナ禍が猖獗を極め、惨憺たる状況に追い込まれました。

私達が大切にしてきた毎月の例会も、リアルの例会を中止せざるを得ない状況に追い込まれたりしましたが、皆さんの努力とご協力により、ZOOM(その後は、ハイブリッド方式)による例会が開けるようになり、災い転じて福となす展開となりました。

ZOOM方式の例会や会議では、当クラブの会員に留まら

先月の例会ポイント (5月)

在籍	13名	切手(国内・海外)	40g
メン	11名	累計	1647g
メイキャップ	0名	現金	0円
出席率	85%	累計	0円
メネット	1名		
ゲスト	0名	スマイル	0円
		累計	86,773円
ビジター	6名	オークション	0円
ひつじぐも	0名	累計	0円

今月の聖句 (2021年6月)

「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」
(新約聖書・マタイによる福音書 7-12)

ず、近隣クラブの仲間の外、国内外の遠隔地のワイズの仲間やリモート授業で故郷に帰省している：ひつじぐもの学生さんとの相互乗り入れが可能となり、ワイズメン活動の奥の深さと世界的な絆の広がりを実感できる良い機会をもたらしてくれました。

何か解らないことや困ったことに遭遇しても、八王子クラブの偉大な先輩方を始め、国内外の様々なワイズメンが救いの手を差し伸べてくれました。

そのような経験は、私が、会長の就任に際して掲げた主題：「すべてに感謝」を地で行く展開となりました。

私は、元来はクリスチャンではないのですが、八王子ワイズメンズクラブの会長を拝命するに当たって、基本的な素養を身につけようと思って、日本聖書協会が2018年に発行した新共同訳の聖書を購入して、読み始めました。

八王子ワイズメンズクラブの行く手に立ちほだかる分厚い壁に遭遇した時、当クラブのブリテンに並木前会長が寄稿される「今月の聖句」と並んで、偶々この聖書の中で見つけた詩編3節7と9の「私は、決して恐れませんが、私を取り囲む幾千万もの民を」、「救いは主のもの。あなたの民の上に祝福を。」の詩句に勇気づけられて過ごしてきました。

来る7月からは、八王子クラブのエース・山本会長の下で、2021年度がスタートします。来年度も、それ以降も、私たちは、ともに手を携えて、歩み続けたいと切望します。

ワイズの活動は、ブリテンと共にあった。

ブリテン編集長 山本英次

私はクリスチャンでもなければ教会の信者でもないが、ただ一つ新約聖書の中の「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない」の一文が記憶の奥に残っている。次年度会長の職責に推挙され、最期のワイズへの恩返しとばかりに無理を承知で引き受けてしまった。「愛」という言葉を含む格言に高山樗牛の「天にありては星。地にありては花。人にありては愛。これ世に美しきものの最たるや」とありますが、私の愛する言葉です。

「楽しくなければクラブでない」と言い古された名言ですが、将に「愛と笑いのないところ、楽しみもあるべからず。愛と笑いのなかに生きよ！」をモットーにしよう。

八王子クラブの好きなどころは、楽しく、笑いあい、互いに尊敬しあう事を知る人々の集まりであることでしょう。決して他人を貶したり、貶めたりしない人々であることでしょう。私が曲りなりにチャーターメンバーであり続ける事ができて、ブリテン編集長の重責を担い続けることが出来たのも、良き仲間によってクラブ活動を全う出来てきたからです。

ブリテン編集の原点は、毎回お話をさせて戴きますが、奈良昭彦さんと眞野範一さんです。

Word のイロハからゆつくと丁寧に手取り足取りご指導くださ

った恩を決して忘れません。

心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

2021年6月で312号を迎えることが出来ました。編集を支えてくれたクラブメンバー全員にお礼のことばを述べさせて頂きたいと思います。

編集長の身勝手さで、毎月の原稿を半強制的に依頼のメールを送っておりましたが、途切れることなく原稿をお届けくださり、毎月感謝・感謝の連続でした。

これからは、茂木 稔さんにバトンタッチをしますが、安心してお任せできます。

パソコンについては、プロ級の腕前と見識をお持ちで、これまでも毎月支えてくださいました。副会長も兼任していただけるので、クラブ運営についても大船に乗ったつもりで出航することが出来ます。

皆さん、これまでありがとうございました。そしてこれからの1年間をよろしく願いいたします。

2021～2022 年度

八王子ワイズメンズクラブ 会長方針

次期会長： 山本 英次

会長主題：「コロナ禍を乗り越えて、新時代のクラブへ」

コロナ感染の影響から未だ開放されない現実をメンバーの皆さんの努力と工夫で2年間を過ごすことが出来ました。

ワクチン接種が始まり、感染の恐怖からの終息が感じられる今こそ、勇気をもって立ち向かひましよう。後期高齢者といわれながらも、長年培った知恵と経験を活かして（コロナ禍を乗り越えて、新時代のクラブへ）生まれ変わろう！

2. (重点目標) :

CS (地域貢献活動) として永年に渡り開催してきた「チャリティーコンサート」活動を 2022 年3月には是非とも開催にこぎつけたい。10年間続いた「東日本大震災復興支援」活動が一段落したのを機会に主題に掲げた通り、ワクチン接種を全員終了した後は万全の態勢でクラブの新時代を切り開いてゆく覚悟であります。

チャリティーコンサートの義援金は、以前からの地雷廃絶は元より、新しい提供先を模索する事にしよう。

中央大学のボランティアグループ「ひつじぐも」との交流は既に二十年になり多くの学生が、海外への人材派遣 (IYC・STEP・AYC) に参画している。クラブ活性化の為にも継続することを願っている。

東京YMCA 便り 6月号

会員部統括・賛助会主任主事 中里 敦

- ◆緊急事態宣言が延長され6月を迎えました。私個人の生活は外での飲食がなくなった(もともとあまりしていませんが)こと以外は、ほとんど変わらず生活をしています。仕事の行き帰りの電車は込み合っているのは当たり前など、コロナが自分事ではない気が時折折してしまいます。
- ◆4月29日、生活が困窮している江東区内のひとり親家庭を対象に、食材などを無料で配布する「第4回フードパントリー」が東陽町センターで開催され、日増しに高まるニーズに応えるべく、今回は対象を50家庭に増やして実施した。東京YMCAの会員他、多くの企業や個人から食材のご寄付等によるご支援をいただいた。
- ◆5月3日、三菱商事と東京YMCAが共催し、「第6回ドリームキャンプ」を開催した。このキャンプは、障がいのある子どもたちが様々な種類のスポーツを体験できるよう、その機会を提供するとともに、アスリート等との交流を通してより前向きな生活が送れるように励ますことを目的としている。
- ◆5月22日、「第18回会員大会」が「コロナ禍でのYMCAを考える」をテーマに、オンラインで開催され70名が参加した。第一部の開会礼拝に続き、第二部では2021年度の会員部運営委員の推挙、名誉会員の表彰、「Volunteer of the year」、「Youth Volunteer of the year」が表彰された。続いて菅谷淳総主事より昨年度の東京YMCAの活動について報告があった。第三部では関田寛雄牧師の「日本YMCA大会」時の講演内容を共有した後、グループに分かれての分団協議と、会員の加藤祐一氏にご指導いただき、災害等非常時に役立つ新聞紙を用いた「カッター折り」を体験した。

ひつじぐも便り 6月号

次期委員長 渡辺伊純

さわやかな初夏となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。私の実家である徳島県は梅雨入りをし、なかなか晴れ間が見られない日々が続いています。

さて、ひつじぐもでは3月から5月下旬にかけてオンライン新歓を実施し、61名の新入部員が入部してくれました。対面での新歓ができず、オンライン新歓のみでしたがこれ程多くの方にひつじぐもを選んでいただき本当に嬉しい気持ちでいっぱいです。緊急事態宣言の再延長や、オリンピックの開催など今後どれだけの活動ができるのか不透明なところもありますが、部員全員で意見を出し合い充実した活動を行っていきたくと思います。

また、5月のオンライン勉強会では献血について勉強しました。現状として、10~30代の献血者数が10年間で徐々に減少してきていることが分かりました。部員も、献血の経験が無い人数の方が多く若者にとって献血が身近でないことを実感しました。そして、このような現状を改善するために私たちができることを部員たちで意見を出し合いました。ある部員からは、献血後に貧血にならないか心配だという声もありました。一方で他の部員からは、献血の現状と課題を発信することで若者の献血者数が増えるのではないかという意見もありました。私自身も、今回の勉強会で献血の仕組みや、課題について知ることができ献血の大切さを改めて実感しました。ひつじぐもも、SNSで若い世代の人々への献血の呼びかけを行っていくべきだという意見で一致しました。献血に対して正しい知識をもち、献血は命をつなぐボランティアであると多くの人が認識すると献血者数も増加すると思います。

6月からも新入部員たちと、試行錯誤しながらコロナ禍でのサークル活動を頑張っていきます。季節の変わり目で体調を崩しやすい時期ですが、くれぐれもご自愛ください。

今月の聖句によせて (2021年6月)

「もてるものが もたないものではない
 しあわせなものが ふしあわせなものではない
 もてるものも もたないものも
 しあわせなものも ふしあわせなものも
 ともにかんがえ ともにまなび
 ともにいけることなのだ」

(高嶋 巖著「いのちを愛する」—川島書店—より)

「双葉園」という児童養護施設の運営にあたられ、戦後日本の児童福祉の制度や思想、ボランティアの精神や活動に大きな影響を与えられた高嶋 巖先生の言葉で、ボランティアの精神、活動のありかたを示す言葉として、広く知られています。

ボランティア活動は決して慈恵的なことではないのだ、ということを示されていますが、今月の聖句には、このボランティア精神の本質が示されています。対する言葉に、「自分にしてほしくないことは、人にもしてはならない」、があります。人に迷惑をかけないようにと自分を抑制する倫理を示す言葉です。しかし、ここから、積極的に人と共に生きようという行動は生まれてきません。人からして欲しいと思うことを、そのとおりにする、ということは、きわめて自主的なことであり、また能動的なことです。自分の行動を通してひととの関係を結び、また、このことによって自らも学んでいくということ、これが、ボランティア精神、ボランティア活動のありたい姿なのでしょう。

並木信一

今月の例会報告 5 月度

〈報告〉

2020-21 あずさ部第3回評議会 ZOOMにて開催
日時:2021年5月8日(土)18:30~20:00
第一号議案:2020-21年度あずさ部CS助成金承認の件…承認
第二号議案:CS助成金剰余金8万円および評議会補助金未支給分3万円のあずさ部ファンドへの繰り入れ承認の件…承認
第三号議案:2021-22年度あずさ部部長活動方針承認の件…承認
第四号議案:2021-22年度あずさ部予算承認の件。承認
第五号議案:2021-22年度あずさ部部大会・評議会承認の件…承認

出席:花輪・小口・久保田・長谷川

2021年5月第一例会(ZOOM例会)

日時:2021年5月22日(土)18:00~19:40

出席:菅野・久保田・小口・中里・並木信一・並木真・長谷川・
花輪・福田・茂木・山本(11名)

メネツ:久保田メネ(1名)

ビンター:江夏一彰(卓話者、東京武蔵野多摩)・

大久保知宏(宇都宮)・篠原文恵(東京西)・

小林文彦(東京武蔵野多摩)・佐藤重良(甲府21)・

野々垣健五(甲府21)(6名) 合計18名

卓話:「感染症新時代への取り組み方」

江夏一彰さん(医師・東京武蔵野多摩)

〈今後の予定〉

・第24回東日本区大会:6月12日13時Zoom

・6月第一例会:6月26日(土)18時~20時

(北野事務所を予定、状況によってZoom)

卓話:フードバンク八王子えがお・理事長佐野英司氏

訃報

会友・中塚辰生さんが今年の1月にお亡くなりになりました。享年80歳でした。

謹んでお悔やみ申し上げますとともに、故人のご冥福を心よりお祈りいたします。

中塚さんは、20年以上に渡り、八王子ワイズメンズクラブで会長2回を務め、中大ひつじぐもの学生にも親身になって付き合っており、その他ワイズ活動にも多く貢献されました。

その中塚さんが昇天されたのは極めて残念です。

久保田貞視 記

高尾わくわくビレッジ便

館長 菅野牧夫

先週利用者から、手すりの木の中から鳥の声が聞こえるという話を聞きました。現場を確認してみると、枕木を使った手すりの隙間に鳥が巣を作りひながかえっていました。1週間ぶりに覗いてみたら元気に育っていました。周りを飛んでいる鳥から判断するとセキレイのひなのようです。獣や蛇にやられないで元気に巣立つことを祈っています。

5/12(水)から八王子市のワクチン接種が始まりました。5月は全部で4回の接種が行われました。1回に500の方が接種を受けているので、5月だけで約2000の方が接種を受けました。6月も7回予定されています。現在は高齢者の方のワクチン接種を行っているのですが、市や業者との打ち合わせの段階では気付かなかったことが何点か出てきています。大きな問題点としては駐車場と接種会場との距離が遠いということです。私たちにとっては駐車場と施設の距離が遠いと思ったことはないし、普段施設を利用している元気なシニアの方からはクレームが出てきたこともありませんが、今回は全高齢者が対象で足腰の弱っている方たちもあり、接種会場までたどり着くのに大変な思いをしていました。

この状況を見て、わくわくビレッジとして地域の方たちに「健康寿命を延ばす」ことが何かできないか、わくわくビレッジで仲間を作ったり、他者のために働いたり、健康な体を作ったりして生き生きと生きる時間を作っていけないかと考え始めています。施設のコンセプトとして実現しにくい所もありますが、ストロングコミュニティーを作るため、何か一つでも実施できたらと思っています。



セキレイの
ひな鳥

手すりの向こうから
鳥の鳴き声



6月の誕生のメンバー
対象者無し